

5月1日(水)

令和6年度 第1回全校集会

校長 中野 康子

あっという間に4月が終わり、爽やかな気候の5月になりました。

私は、皆さんの授業の様子や寄宿舎での食事の様子を時々見に行っていますが、この1ヶ月でうれしかったのは、多くの生徒の笑顔やいい表情をたくさん見られたことです。

入学式の日には1年生はとても不安そうにしていました。その様子を見て、今日から親元を離れて生活できるだろうかと心配になりました。しかし、私のその不安はあっという間に消えてしまいました。先生方はもちろんこと、2年生と3年生が優しく話しかけ、色々なことを丁寧に教え、1年生はそれを素直に聞いて、教えてもらったことができるようになっていきます。

3年生のある生徒が、「今年の1年生は覚えるのが早い。もう全部できる。教えることがなくなった。」と話していました。何事にも一生懸命で覚えの早い1年生も素晴らしいけれど、2年生と3年生の教え方も良かったのだと思います。

そんな中、この1か月に皆さんから聞いた言葉で一番多かったのが、「緊張する」でした。どの学年の生徒からも聞きました。緊張の中身は人それぞれだと思います。

1年生は、学校、寄宿舎、授業、先生、友達など全てが初めてで、緊張の連続だったと思います。2年生は、初めて先輩という立場になり、後輩に対してどう関わればよいのか、どう教えればよいのか分からず緊張したことと思います。3年生は、最上級生になり、卒業した先輩の後を継いで、後輩達をどのように引っ張ればよいのか悩み、緊張したことと思います。

緊張すると、胸がドキドキしたり、言葉がうまく出なかったり、声が小さくなったり、手や足が震えたり、夜眠れなかったりなど、心や体に異変が起こります。でも今はどうでしょう。少し緊張がほぐれてきているのではないのでしょうか。

このように、新しい環境、新しい立場になると、みんな必ず緊張します。それは、「いい高校生になりたい」「いい先輩になりたい」「うまくできるようになりたい」などの、前向きな気持ちがあるからです。前向きな気持ちの緊張は、人を成長させます。4月の最初に比べ、緊張が少し減っている気がする人は手を挙げてください。それは、できなかったことができるようになっていたり、分からなかったことが分かるようになったりなど、成長をしているという証拠です。

これからも、大人になっても、ずっと色々な場面で緊張することがあります。でも『緊張は、心の成長のためのトレーニング』と考えてみてはいかがでしょうか。

皆さんが、前向きな気持ちで、少し緊張しながらも、新しいことに挑戦して、もっともっと成長していくことを期待しています。

